（様式２）【ホームページ掲載用】

研究課題（テーマ）	在宅緩和ケア充実診療所の看護師による終末期がん患者への支援に関する基礎的研究		
研　究　者	所　属　学　科　等	職	氏　　名
代表者	看護学科	助教	枝川　奈都美
分担者	看護学科 看護学科	講師 講師	山﨑　智可 北林　正子

研究結果の概要

＜研究目的＞

在宅緩和ケア充実診療所で勤務する看護師が終末期がん患者に提供している在宅療養支援の実態を、インタビュー調査による看護支援の内容に加え、その支援を必要と認識した背景についても探求することを目的とする。

＜方法＞

在宅緩和ケア充実診療所で勤務する看護師を対象に、研究対象者の属性を尋ねる事前アンケートと 60 分程度の半構造化面接を行う。アンケートは記述統計で、インタビューは質的帰納的に分析する。

＜結果＞

対象施設となる 9 施設のうち、3 施設から研究参加の承諾が得られた。

承諾が得られた施設の研究対象者の内、参加の申し込みが 4 名からあり、内 3 名のインタビューを終えた。インタビューが未実施の研究参加者 1 名は、R8 年度中にインタビューを実施する予定である。

1.診療所の属性

定期的な配置転換がある診療所には、引継ぎに関する業務が生じていた。

診療所に関連する組織の特性によって、所属している職員の構成には特性が現れていた。

2.支援の実態

訪問診療の同行時に提供している看護は、個人の過去の経歴や価値観が反映されていた。

訪問診療では、患者がどのように最期まで過ごしたいかが重要視され、訪問診療の同行時は医師と患者との診療が円滑に進むための支援を看護師は行っており、診療補助の役割を意識して看護師は行動していた。在宅で生活していることから、患者と家族が生活していくために何が必要かという生活の援助についても意識して動いていた。医師からの明確な指示はないことが多く、看護師は医師の診療に必要なことを予測して動くように努めていた。

今後は、インタビューデータをコード化し、より詳細に分析を進めることが必要である。

今後の展開

インタビューについては、3 名の分析を進めつつ、1 名のインタビューで得られる結果を加え 4 名分のインタビューをまとめる。本研究の成果は、国内の学会に学会発表又は論文投稿で発表する予定である。

対象数が限定的であることから、調査範囲の拡大を検討する必要があり、近隣県又は WEB 調査等の利用を検討する予定である。